allcinema

バルタザールどこへ行く（1964）

AU HASARD BALTHAZAR

メディア	映画
ジャンル	ドラマ
製作国	フランス／スウェーデン
色彩	B&W
時間	96分
初公開日	1970/05/02
公開情報	ＡＴＧ
映倫	G
リバイバル	1995/06［フランス映画社］ 2020/10/30［コピアポア・フィルム＝lesfugitives］（４Ｋリストア・デジタルリマスター版）

【解説】

一頭のロバの話です。ピレネーの小村の教師の娘マリーは農園主の息子ジャックと共に、生まれたばかりのロバに“バルタザール”と名前をつけ可愛がります。ある日ジャックが引っ越すことに。バルタザールもどこかへ行ってしまいます。それから１０年。鍛冶屋の労役に使われていたバルタザールが苦しさに耐えかね逃げ込んだ所は、美しく成長したマリーのいる、今は彼女の父が管理しているジャック家の農園でした。マリーが喜んであちこち“彼”に馬車を引かせ出かけるのを見て、彼女に思慕を寄せる不良のジェラールは嫉妬し、バルタザールを痛めつけ、実家のパン屋の配送の仕事にこき使います。折しも、パリで教育を受けていたジャックが里帰りし、初恋の相手マリーに改めて惚れ直し、結婚を口に上らせるのを彼女は拒みます。ジェラールたち不良グループが構い続ける浮浪者はバルタザールに親近感を覚えますが、いつしか、彼と悪ガキたちの争いの犠牲となって怪我を負った“彼”はさ迷った挙句に道端で野たれ死んでしまうのです。その瞳に映る憂い……。日常の中でそれほど憤りを促すこともなく起きてしまう人間の罪科に厳しい眼差しを注ぐブレッソンのストイシズムの顕現がこのロバ君だと言えそうです。トリュフォー曰く、“この映画は美しい。そう、私にとってただ美しいのみである……”。

【クレジット】

監督	ロベール・ブレッソン	Robert Bresson
製作	アナトール・ドーマン	Anatole Dauman
	マグ・ボダール	Mag Bodard
脚本	ロベール・ブレッソン	Robert Bresson
撮影	ギスラン・クロケ	Ghislain Cloquet
音楽	ジャン・ウィエネル	Jean Wiener
出演	アンヌ・ヴィアゼムスキー	Anne Wiazemsky
	フィリップ・アスラン	
	ナタリー・ショワイヤー	
	ヴァルテル・グレーン	

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.